

異質は面白い

えんちょう こうち たかし
園長 高地 敬

さいきん 最近、「ホモ・フォビア」という言葉を知りました。「ホモ」は字の通り、「ホモセクシュアル(同性愛)」のことです。「フォビア」は恐れたり嫌悪する気持ちですので、「同性愛の人を嫌悪する」人のことをいうようです。同性愛の人は自分とは全く違うからとても嫌だ。そのような人は自分たちの権利を主張するけれど、権利なんか認めるべきではない。と、そこまで考えなくても、「自分とは違っていて、すごく嫌だし、近づきたくない」と感じる人は多いのではないのでしょうか。

(アジアやアフリカのかなりの国で、同性愛というだけで犯罪者並みに扱われ、いくつかの国では最高刑になるようです。)

じぶん 自分とすごく違うものは、受け入れられないし攻撃もする。だれの心の中にもある気持ちなのだろうと思います。

ふくいけんお ぼまし 福井県小浜市にある聖ルカ教会のすぐ近くに福井県立若狭高校があり、公立ですが、かなりユニークな教育で知られています。聖ルカ教会の信徒でこの学校の先生だった方が、この高校の教育目標について、「異質なものに対する理解と寛容の精神を養い、教養豊かな社会人の育成を目指す」と考えられました。

この方は後に若狭高校の校長になり、また担ぎ上げられて小浜市長にもなれましたが、まだ若いころにこの教育目標を考えられたのだと思います。

自分とかなり違うものは自分を攻撃してくるかもしれないので、防衛本能から異質なものを避けるのだとも言われますが、見渡せば自分のまわりにもいろんな人がいて、言葉も肌の色も文化も違う人がもっとたくさんいるのですから、避けてばかりいないで、難しいかもしれませんが、「異質な人がいるから世界は面白い」と感じられたらいいなと思います。

2学期になって子どもたちは初めてのことをますますたくさん経験し、自分とは違ったところをたくさん持っている多くの人と出会い、不安もあり、我慢することもあり、でも「世界は面白い」と少しだけでも感じながら過ごすことができればと願っています。